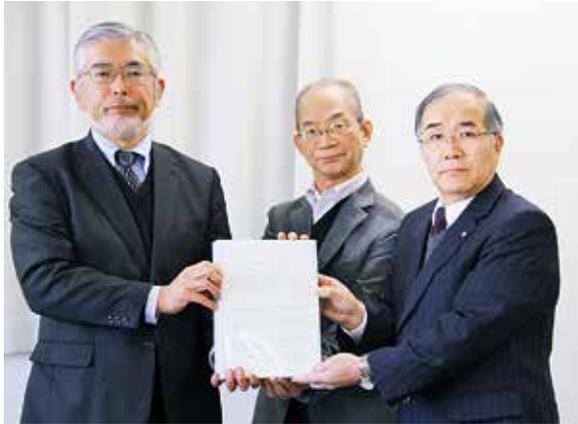


# 浪江町復興計画【第二次】 [2017(平成29)年3月策定]

## 浪江町の将来像を描くために



役場二本松事務所において、吉岡正彦委員長（写真左）から町に「浪江復興計画【第二次】に係る提言」を提出



委員会の開催の様子

2017(平成29)年3月に浪江復興計画【第二次】を策定しました。この計画には、復興の理念や基本方針を受け継ぎつつ、残された課題・新しい課題を見極めて解決策を模索し、浪江町の将来像を描くため、21人の委員が策定に携りました。6回にわたる会合では、住民懇談会や住民意向調査、パブリックコメントなどを通して多くの町民から意見を伺い、その思いを反映しました。

## 浪江町復興計画【第二次】策定経過

2016(平成28)年6月23日～7月5日

### 浪江町住民懇談会

- ・避難指示解除に関する有識者検証委員会報告書の概要説明
- ・避難指示解除に向けた考え方等（国）

2016(平成28)年8月10日 第1回策定委員会

- ・委嘱状交付、委員長選出
- ・浪江町復興計画【第二次】策定までの経緯
- ・浪江町復興計画【第二次】検討の進め方
- ・浪江町復興計画【第二次】の目的・理念・方針の確認
- ・浪江町復興計画【第一次】に位置付けられた施策の進捗評価

2016(平成28)年9月20日 第2回策定委員会

- ・浪江町復興計画【第一次】に位置付けられた施策の進捗評価
- ・浪江町復興計画【第二次】の目次構成と項目

2016(平成28)年10月26日 第3回策定委員会

- ・浪江町復興計画【第二次】の構成
- ・浪江町復興計画【第二次】の取組の具体化

2016(平成28)年11月29日 第4回策定委員会

- ・浪江町復興計画【第二次】施策編の修正確認
- ・浪江町復興計画【第二次】の中間とりまとめ
- ・浪江町復興計画【第二次】中間とりまとめへの意見募集（パブリックコメント）・概要版

2016(平成28)年12月22日～

2017(平成29)年1月10日

### 「浪江町復興計画【第二次】中間とりまとめ」への意見募集（パブリックコメント）

- ・配付件数：9,131 世帯（回答数 115 人・コメント数 320 件）

### パブリックコメント（町民の意見より抜粋）

- 除染、放射性廃棄物  
放射線マップなどで危険箇所が分かるようにきめ細かく作成してほしい。webや紙媒体など、できうる限りの手法を使って情報提供してほしい。
- まちづくり・景観、住まいの再建  
除染後の宅地・農地・空き地・道路等の管理チームが必要である。帰還しない人たちの家屋と土地の取り扱いを明らかにすべきである。
- 帰還困難区域  
整備計画を分かりやすく定めてほしい。復興拠点について、意見を聞く場を地区ごとに複数回、開催してほしい。再生に何年かかるかはっきりさせてほしい。インフラ等の帰れる環境をきちんと整備してほしい。
- 商工業、新たな産業形成、産業振興  
現状の補助金は事業再開までなので、開業からのインセンティブも必要と考える。農地保全より、ソーラーパネルを設置し収益を上げてほしい。
- 伝統文化  
神社や仏閣が荒廃しているので修繕が必要である。
- 生活支援・行政サービス  
高速道路の無料化や医療費窓口負担の減免の継続をお願いしたい。

2017(平成29)年1月26日～2月10日

### 避難指示解除に関する浪江町住民懇談会

- ・避難指示解除に向けた考え方等（国）
- ・浪江町復興計画【第二次】（案）概要説明

2017(平成29)年2月3日 第5回策定委員会

- ・浪江町復興計画【第二次】（案）へのパブリックコメントの意見反映
- ・浪江町復興計画【第二次】（案）施策編の各施策工程表の確認
- ・浪江町復興計画【第二次】（案）提言書の提示

2017(平成29)年2月15日 第6回策定委員会

- ・浪江町復興計画【第二次】（最終とりまとめ）

<p><b>策定の目的</b></p>	<p>2012(平成24)年4月策定の「浪江町復興ビジョン」、同年10月策定の「浪江町復興計画【第一次】」に掲げた復興の理念、復興の基本方針を踏襲しつつ、2017(平成29)年4月から2020(令和2)年までの本格復興期の計画、並びにその先の町および町民の将来像を策定することを目的とします。</p>
<p><b>復興計画の位置づけ</b></p>	<p>復興計画【第二次】は、「復興ビジョン」に掲げた「復興の理念」「復興の基本方針」を具現化した復興計画【第一次】を状況の変化に応じて見直したものです。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>復興計画【第一次】</b> 2012(平成24)年10月策定</p> </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>復興計画【第二次】</b> 2017(平成29)年3月策定</p> </div> </div>
<p><b>復興計画の推進</b></p>	<p>復興計画【第二次】では、「安全・安心」「エネルギー地産地消」「新たなまちづくり」「発信・交流」の4つの分野を取り上げ、それぞれについて具体的な個別プロジェクトの実施を提言し、国、県、民間企業の協力のもと、着実に推進します。進行管理については、計画どおりに実行されているかを随時確認し、実行が困難になった場合は、何が課題となっているかの検証を行い、その対策を整え、着実な実行につなげていきます。</p>
<p><b>復興の基本方針</b></p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>先人から受け継ぎ、次世代へ引き継ぐ“ふるさと”なみえを再生する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○先人が大切に育んできた“ふるさと”を人事を尽くして再生させる。</li> <li>○行政と町民が一体となって新しいまちづくりの先駆者(パイオニア)となり、町の復旧・復興と環境回復を精力的に進める。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>被災経験からの災害対策と復興の取組を世界や次世代に生かす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○浪江町の記録と記憶、被災経験を通じて得た教訓を、次世代に継承する。</li> <li>○再生可能エネルギー・新エネルギーの活用や、防災に資するロボットの開発等の新しい産業創出を進める。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>どこに住んでいても、すべての町民の暮らしを再建する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どこにいても町との繋がりを保てる環境を創る。</li> <li>○町で充実した生活ができる環境の再生を行う。</li> <li>○生活再建を達成できるよう、必要となる支援を行う。</li> <li>○生きがいづくりや充実した健康管理により、いきいきとした生活ができる環境を創る。</li> </ul> </div>

2018 (平成30) 年4月1日～2019 (平成31) 年3月31日

## 町のこしのバトン。 その想いは次代に託された

ふたばワールド 2018 in なみえ

### 本格復興期。子どもたちの笑顔が町に戻る

#### ■認定こども園、小中学校、開園式・入学式

本格復興期に当たる2018 (平成30) 年度は、町内の生活環境の充実と賑わいの回復を見据えて、雇用確保に向けた産業関連事業が大きく進展しました。町の一般会計では、平成29年度当初比22.9%増の、総額329

億4,500万円の大規模予算を組み、町政を運営しました。

避難指示解除より1年が経過した町では、教育行政関連も活発な動きを見せ、幼稚園、小中学校の整備が進



なみえ創成小学校・なみえ創成中学校の開校式・入学式

## TOPICS

## きぼうの桜に復興の願いを込めて

2018（平成30）年4月11日、請戸地区の浪江町営大平山霊園前コミュニティ広場において、浪江町きぼうの桜植樹祭を行いました。「きぼうの桜」は、山梨県北杜市から贈呈されたもので、同市実相寺にある推定樹齢2,000年、日本最古の桜といわれる「山高神代桜」（国指定天然記念物）の苗木で、スペースシャトルで宇宙飛行した種から育てたものです。町の新たな復興のシンボルとなるようにとの願いを込めて、なみえ創成小学校・中学校の児童・生徒と町民らによって植樹しました。



浪江町きぼうの桜植樹祭



浪江にじいろこども園の開園式・入園式

み、2018（平成30）年4月5日には、「浪江にじいろこども園」の開園式と入園式が行われました。園児ら13人が家族に見守られるなか、希望に満ちた式典となりました。翌4月6日には「なみえ創成小学校」「なみえ創成中学校」の落成式・開校式・入学式が行われました。初年度にあたる平成30年度の入学・転入生は小学校8人、中学校2人。当日は、避難先の浪江小学校・津島小学校・浪江中学校の児童・生徒も駆けつけ、開校祝いの和太鼓演奏や児童・生徒一人ひとりから学校生活への期待と決意表明が行われるなど、賑やかで晴れやかな式典となりました。

同年10月には、浪江にじいろこども園・なみえ創成小学校・なみえ創成中学校合同による運動会が開催され、園児・児童・生徒と300人を超える地域住民で大いに盛り上がりました。

また、一時帰宅の町民や事業再開の準備をする事業者の滞在施設として、宿泊施設「福島いこいの村なみえ」の営業が再開し、浪江日本プレーキ工業株式会社、日立化成株式会社、アサヒホールディングス株式会社、株式会社安藤・間 東北支店（敬称略・順不同）から寄附が寄せられました。

## 2018（平成30）年

## 【4月】

- ・町内に「浪江町立なみえ創成小学校・中学校」が開校、町内に浪江町認定こども園「浪江にじいろこども園」が開園
- ・なみえ桜まつり花火大会開催
- ・県道50号（浪江三春線）の特別通過交通開始
- ・棚塩産業団地の整備開始（棚塩地区）

## 【6月】

- ・8年振りに「日山（天王山）の山開き」開催
- ・「福島いこいの村なみえ」が営業再開



## 【7月】

- ・町内で8年振りに標葉郷野馬追祭



## 【8月】

- ・国道399号（国道114号から帰還困難区域境〔葛尾村方面〕）および国道459号（国道114号から帰還困難区域境〔川俣町方面〕）の特別通過交通開始
- ・「福島水素エネルギー研究フィールド」の建設工事開始（棚塩地区）
- ・吉田数博氏が浪江町長に就任
- ・浪江消防署の本格運用開始

## 【9月】

- ・町内で福島県消防協会双葉支部幹部大会開催
- ・町内で「ふたばワールド」開催（浪江町地域スポーツセンター）

## ■ 「町のこし」に尽力。馬場有町長永眠

2018（平成30）年6月27日、震災後、被災者支援と町の復興の陣頭指揮を執った馬場町長が永眠（享年69歳）。通夜および葬儀は、馬場家と浪江町の合同葬として7月2日と3日に執り行われました。約1,500人の参列者が訪れ、故人の冥福を祈りました。

馬場町長は、町議会議員、県議会議員を経て2007（平成19）年12月の町長選で初当選。以降3期10年6カ月にわたって在職。東日本大震災および原発事故以来、「町に戻る人も、戻らない人も、迷っている人も浪江町民。町はその一人ひとりに寄り添っていく」という信念は揺るがず、2,666日間、全身全霊で「町のこし」に取り組まれました。馬場町長の遺志を継ぎ、同年8月5日、吉田数博氏が町長に就任しました（昭和31年の合併以降 第17代・10人目）。



故・馬場前町長 平成29年4月入園式にて



しめやかに執り行われた馬場前町長の葬儀

## ■ 双葉郡8町村が手を取り合って

2018（平成30）年9月29日、浪江町地域スポーツセンターにおいて、双葉郡8町村の祭典「ふたばワールド2018 in なみえ」を開催しました。イベントは2013（平成25）年に再開されていましたが、浪江町での開催は震災後初。来場者は1万5,580人と過去最多を記録し、双葉郡の交流の場として大いに盛り上がりました。

また、ふたばワールドや復興なみえ町十日市祭、避難地の町民交流イベントなどに参加し、人気を博していた「うけどん」が10月1日に浪江町イメージアップキャラクターに就任し、委嘱状が手渡されました。「うけどん」は、2014（平成26）年に町の情報を配信するタブレット端末のキャラクターとして選ばれたもので、町復興の癒やしナビゲーターとも言える存在。現在はその愛らしさから様々な「うけどん」グッズが誕生しています。

## ■ 産業再生の動き、次々と

11月末時点の町の事業者数は、再開・新規を合わせて124事業所で、地元雇用者確保のための「合同就職説明会」「福島イノベーション・コースト構想 ふくしまみらいビジネス交流会」などを開催するほか、地元事業者と大手企業のビジネスマッチングを目的とした「結いの場」などの交流事業を行いました。

雇用の場の確保の面では、藤橋、北、南および棚塩産業団地にて企業誘致を進めました。藤橋産業団地では、フォーアールエナジー株式会社浪江事業所が操業を開始。棚塩産業団地においては、福島水素エネルギー研究フィールド、木材製品生産拠点およびロボットテストフィールドの整備を進めました。農業については、19行政区に農事復興組合を設立し、農地保全活動を実施しました。また、水産業の再開に向けて港湾整備事業が完了。荷捌き施設、加工団地の整備が進み、第1期入居事業者として「有限会社 柴栄水産」が内定しました。

2018 (平成30)年

【10月】

- ・浪江町イメージアップキャラクターに「うけどん」が就任
- ・なみえ創成小学校・中学校・浪江にじいろこども園の合同運動会
- ・東京工業大学科学技術創成研究院と協働提携に関する協定を締結
- ・静光産業(株)と工場立地に関する基本協定を締結
- ・平成30年度浪江町住民意向調査を実施

【11月】

- ・交流イベント「なみえ町民号」が復活(志戸平温泉と世界遺産平泉への旅)
- ・町内で大堀相馬焼「大せとまつり」が十日市祭と同時開催



【11月～12月】

- ・農地パトロール(農地の利用状況調査)が再開

【12月】

- ・北産業団地造成工事に伴う安全祈願祭(北幾世橋地区)
- ・(有)柴栄水産が請戸地区水産加工団地立地事業者に決定

2019 (平成31)年

【1月】

- ・東京農業大学と農業に関する包括連携協定を締結

【2月】

- ・震災遺構検討委員会が町に提言
- ・若野神社で町指定無形民俗文化財「請戸の安波祭」開催(請戸地区)
- ・イオンリテール(株)と商業環境整備に関する覚書を締結

【3月】

- ・浪江町東日本大震災追悼式を開催(如水典礼さくらホール)
- ・浪江町健康づくり総合計画を策定、なみえ創成小学校・中学校の校歌完成披露会として「校歌完成の集い」を実施
- ・町内で浪江町芸能祭を開催(浪江町地域スポーツセンター)

TOPICS

8年振りに日山(天王山)山開き

2018(平成30)年6月3日、日山(天王山)の山頂にて山開きが行われました。この山開きは、東日本大震災および原発事故の影響で中止されて以来、8年振りの再開となりました。当日は周辺5市町村(二本松市・田村市・浪江町・川俣町・葛尾村)の登山者をはじめとする約1,000人が集まり、山頂からの絶景を楽しみました。

